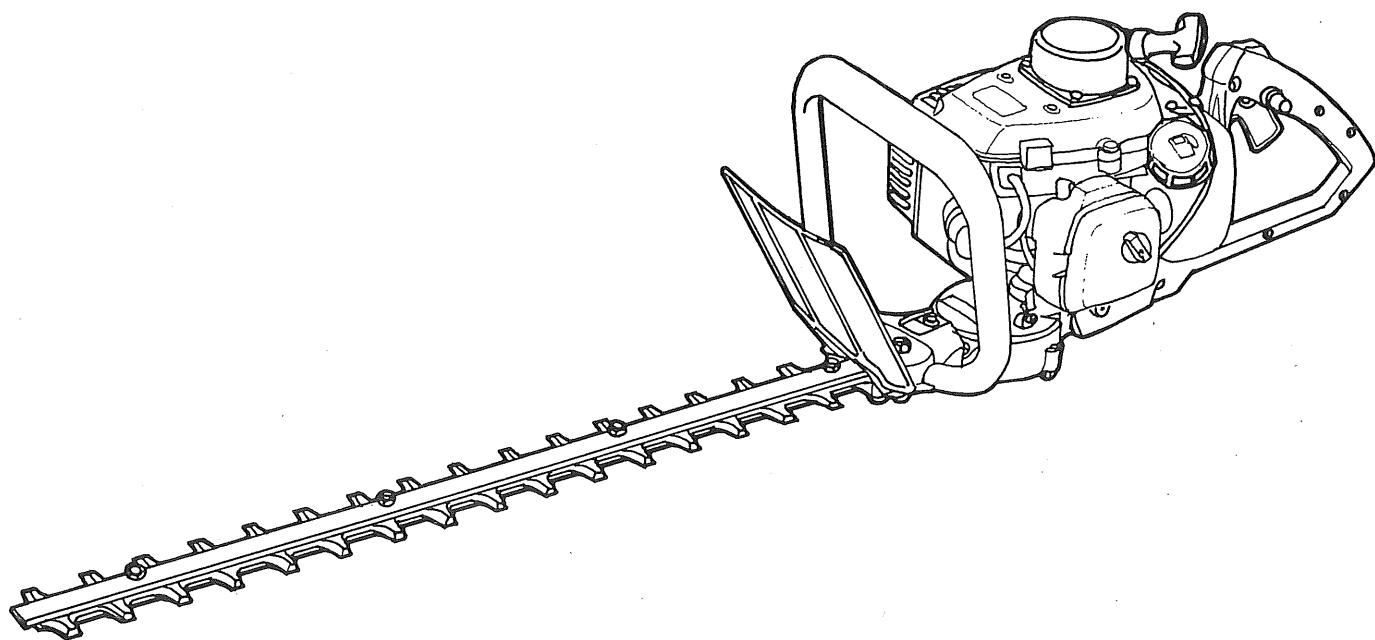


RYOBI®

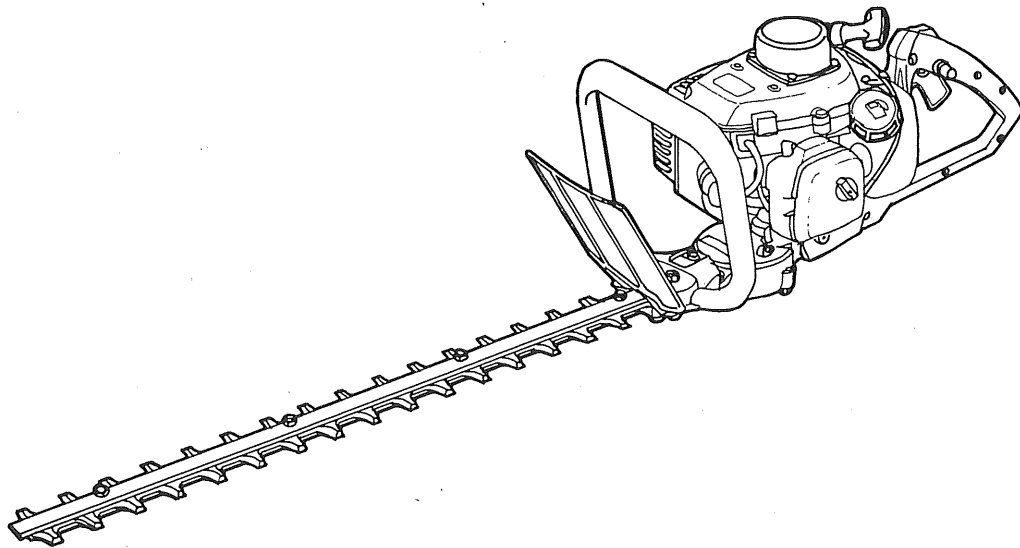
エンジンヘッジトリマ

EH-601

取扱説明書



●改良のため製品仕様が変更する場合があります。



このたびはリョービ、エンジンヘッジトリマをお買い上げいただき誠に有り難うございます。

お買い上げいただきました製品を、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読み下さい。

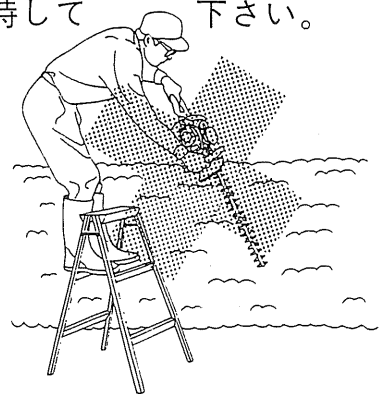
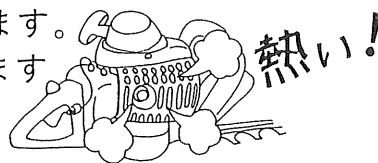
また、大切に保管していただき、わからない時は繰り返しお読みいただき、安全に効率よく、末永くご利用いただきますよう、お願いいたします。

なお、製品についてのご不明な点やご質問等は、お買い求めの販売店もしくはリョービパワーツール取扱い販売店、または最寄りのリョービ販売株式会社の営業所まで、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

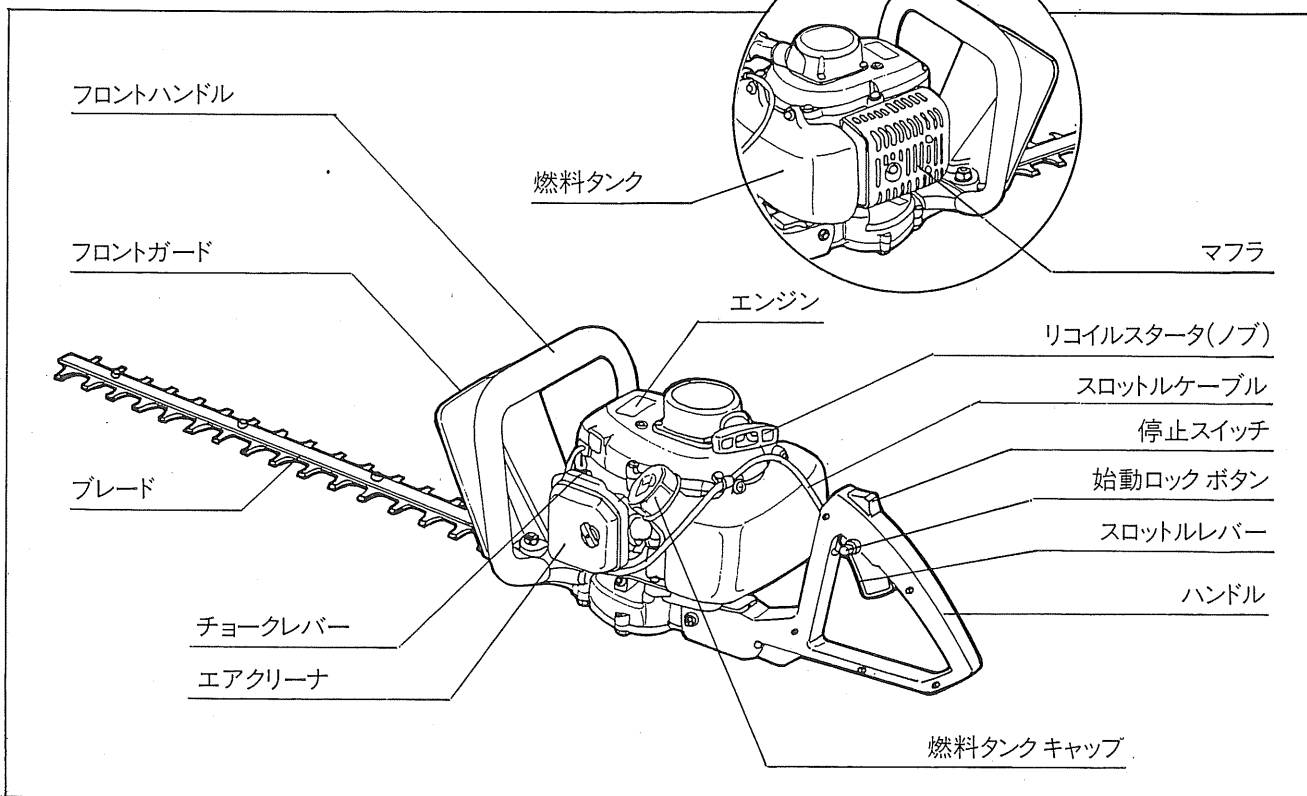
■ご使用に当たりますの注意事項

ご使用前には必ず取扱説明書を十分お読みいただき、指定された以外の用途にはお使いにならないで下さい。

- ブレード、特に刃先は非常に鋭く研がれています。
不用意に触れますと思わぬけがをすることがあります。
取扱いには十分ご注意下さい。
- 作業に適した服装を心掛けて下さい。
長袖、長ズボンの作業服に丈夫な手袋、滑りにくい作業靴を使用して下さい。
また目の保護のため保護メガネなども着用して下さい。
袖口の開いた服装や、ネクタイ、首に巻いた手拭いなど、引っ掛かるものや巻き込まれる恐れのあるものは危険です。
- お酒を飲まれた後や体調の悪いときはご使用を控えて下さい。
- 燃料は混合ガソリンを使用します。
ガソリンと2サイクルエンジンオイルは、規定の比率で正しく混合されたものを使用して下さい。古い混合燃料は混合比が変わっていたり、ガソリンの成分が変質していたりすることがありますので、新しい混合燃料を使用するようにして下さい。
- 給油の際は、引火の恐れのないように、焚き火などの周囲やくわえタバコでの給油は絶対にしないで下さい。
- エンジンの回転をあげると自動的にブレードが動き始めます。
エンジンの始動は正しい姿勢で、周囲の安全を確認してから行って下さい。
- 作業中は、安全のため小さいお子様や動物などが近寄らないように注意して下さい。
- 運転中は常にハンドルを両手でしっかりと握って機械を保持して下さい。
また、足場は安定したところを選び、ムリのない姿勢で運転して下さい。
急斜面やぬかるんだところ、はしごの上などでは特に危険です。
- エンジンの運転中や停止直後はマフラに触れないで下さい。
高温のためやけどの危険があります。
同様にギヤケースも高温となりますので十分注意して下さい。
- 安全のため、作業途中での機体の点検や整備および燃料補給を行う時は、必ずエンジンを停止させてから行って下さい。また、一時的に機械から離れる時や、持ち運びの際もエンジンを停止させて下さい。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。室内や換気の悪い場所では運転しないで下さい。
- 使用前や使用後は定期的に機械を点検し、ゆるみや異常が発見されたときは速やかに買い求めの販売店、全国各地のリョービパワーツール取扱販売店、もしくは最寄りのリョービ販売(株)営業所にお問い合わせ下さい。



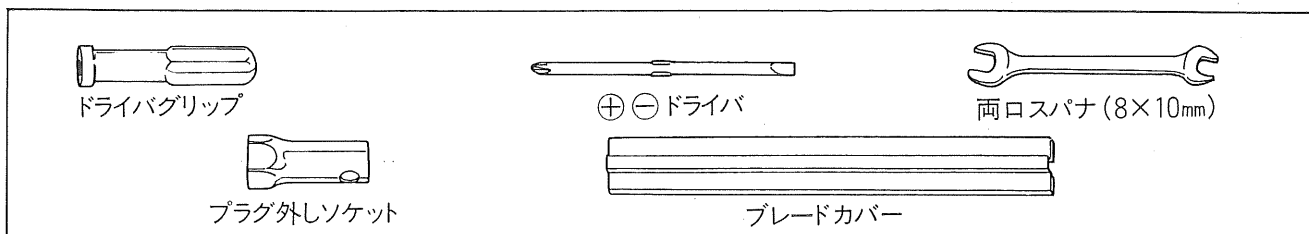
■各部の名称



■仕様

刈込み有効長	560mm
ブレードピッチ	刃高21×ピッチ35mm
動力伝達方式	遠心クラッチ／平歯車／カムクランク
減速比	4：1
潤滑方式	グリス封入式
エンジン形式	G23LH・空冷2サイクルガソリンエンジン
排気量	22.5cc
最大出力	1.2ps
燃料	2サイクルエンジンオイル混合ガソリン
気化器	ダイヤフラムキャブレター
点火方式	電子点火
点火プラグ	チャンピオンCJ6Y
燃料タンク容量	0.6ℓ (連続運転時間約60分)
機体サイズ	長さ1,020×幅220×高さ225mm
全装備乾燥重量	4.6kg

■通常付属品



■燃料について

- 2サイクル混合ガソリンエンジンに使用する燃料は、2サイクルエンジンオイルと自動車用の無鉛ガソリンを「1：20～25」の比率で混ぜ合わせた混合ガソリンを使用します。
- 調合には、混合容器などを使って、正しい混合比率で調合するようにして下さい。

- 混合ガソリン(燃料)は、1日の運転される時間に合せた量を、その都度調合するようにして下さい。

また、運転作業中は、燃料の保管に注意して下さい。

直射日光の当たるところや高温になるところはさけるとともに、火の気がなく引火の恐れのないところへ保管して下さい。

こぼれた燃料は完全に拭き取って下さい。

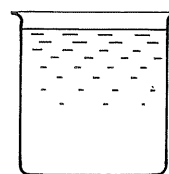
- エンジンを始動する際は、燃料を保管するところから3m以上離れて始動するようにして下さい。

- 燃料は紫外線や高温に長時間さらされると酸化が進んだり、ガソリン成分が気化することにより混合比が変化し、キャブレター等に悪影響を及ぼすばかりでなく、エンジンの始動不良の原因となります。

エンジンを長時間お使いにならないときや、保管されるときは燃料タンクから燃料を抜き取りエンジン内部の燃料を空にして下さい。

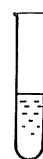
残った燃料は、冷暗所に保管して下さい。

20～25

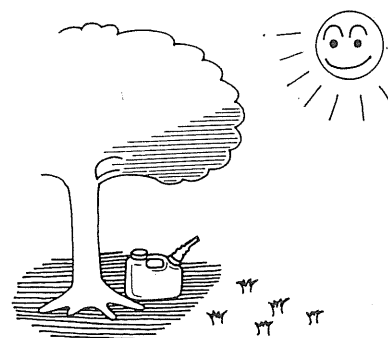


無鉛ガソリン

1



2サイクル
エンジンオイル

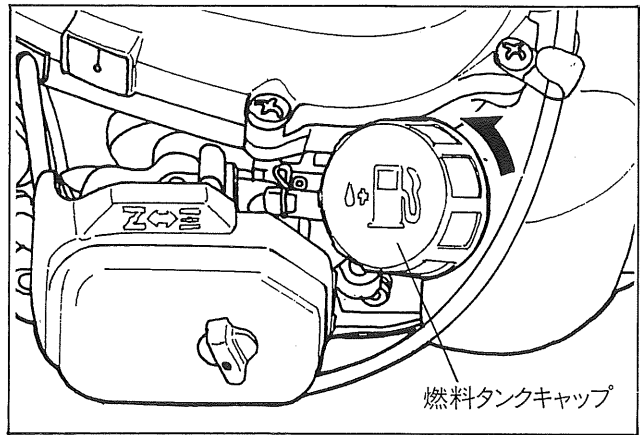


■エンジンの運転

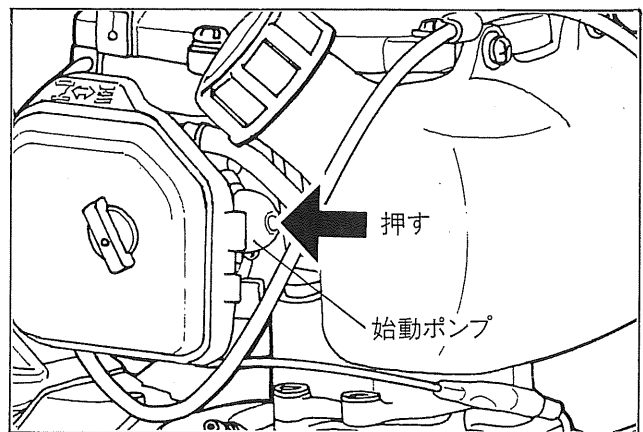
●始動

- 1) 燃料タンクキャップを取り、タンク内に燃料を入れます。
このとき、ほこりやゴミが入らないよう注意して下さい。
入れ終わったら、キャップをしっかりと閉めて下さい。

*こぼれた燃料は拭き取って下さい。



- 2) 始動ポンプを指で数回押し、透明の燃料パイプに燃料が流れて入っていくことを確認します。

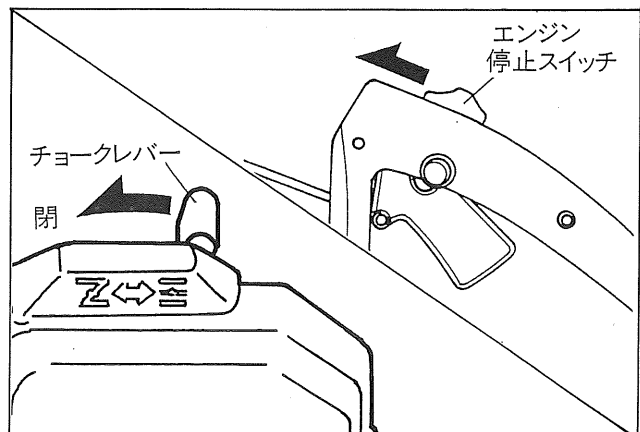


- 3) エンジンの停止スイッチをエンジン側にスライドさせ、始動位置にして下さい。

- 4) チョークレバーを「閉」マーク側に倒し、チョークを閉じます。

(ご注意)

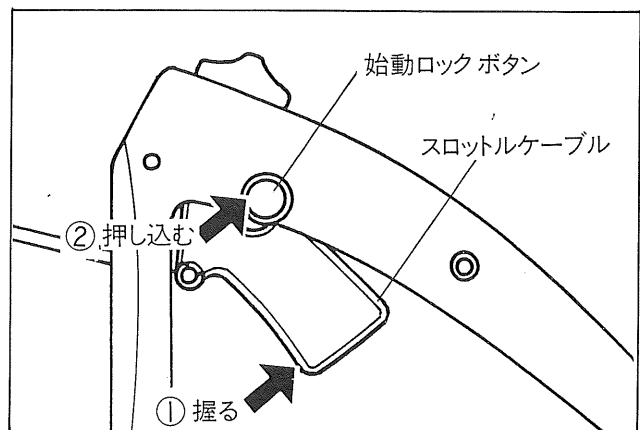
エンジンを停止直後に再始動されるときは、チョークレバーを操作する必要はなく、開いたままとして下さい。



- 5) スロットルレバーを半開にします。
スロットルレバーを握りながらハンドル側面の始動ロックボタンを押し込んで、スロットルレバーを始動位置にセットします。

(ご注意)

エンジンの停止直後では、スロットルレバーは戻された位置のままでも再始動することが出来ます。



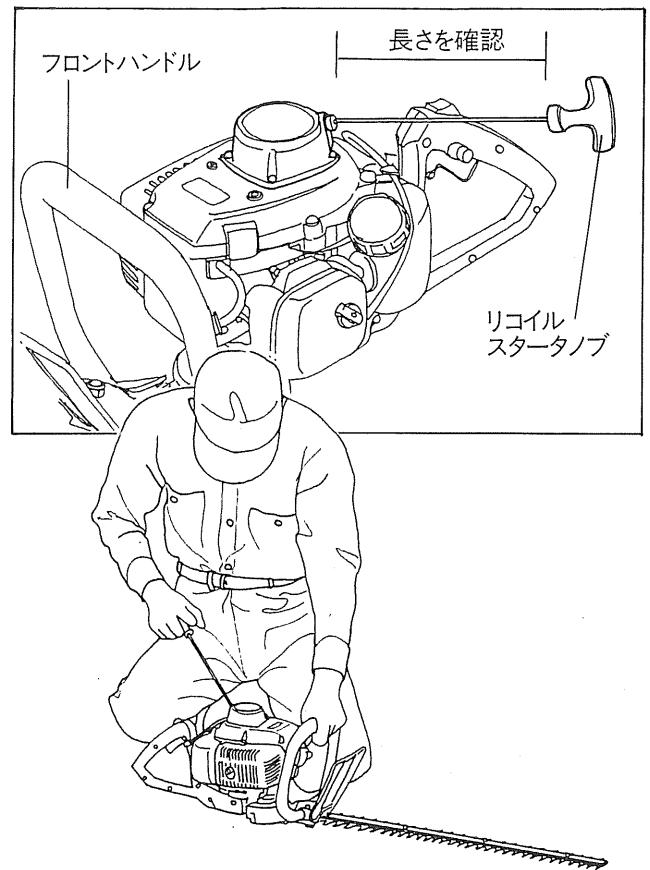
- 6) 機体を平らな地面に置き、片手(左手)でフロントハンドルをしっかりと押えながら、残った片手(右手)でリコイルスタータノブを引きます。
 始めはゆっくりと、ロープの長さ確かめ、圧力の変化を読みとる感じでノブを引きます。
 圧縮が感じられたところで一度ロープを戻し、再度、力強く一気にノブを引きます。

ご注意

小さな音ですが、エンジン内部での爆発音が起こりますので聞き逃さないよう注意して聞いて下さい。

一度で爆発音がしないときは、2～3回連続してノブを引き、爆発音を聞いて下さい。

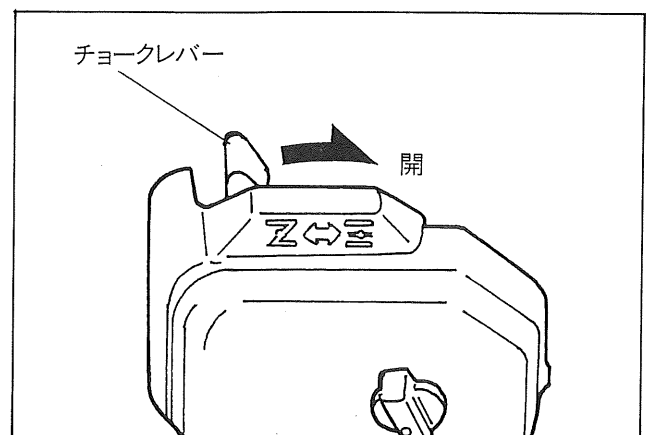
* ノブを引くとき、ロープの長さ以上に引きますとリコイルスタータのロープが切れる原因となりますのでご注意ください。



- 7) 爆発音が聞こえたら、チョークレバーを「開」マーク側へ戻して下さい。
 多くの場合は、軽く爆発音がしてもエンジンはかかりません。
 再度、勢いよく一気にノブを引いて下さい。
 エンジンがかかるまで、数回繰り返しノブを引きます。

* 燃料の吸い込みすぎにご注意下さい。

爆発音を聞き逃し、吸い込みすぎたときはスロットルレバーを「全開」となるように握ったままで5～6回(吸い込み量により異なります)。リコイルスタータノブを引いてエンジン内部のガスを掃き出させます。この後、(5)の「スロットルレバーを半開の位置にセット」に戻り、操作を繰り返して始動させて下さい。

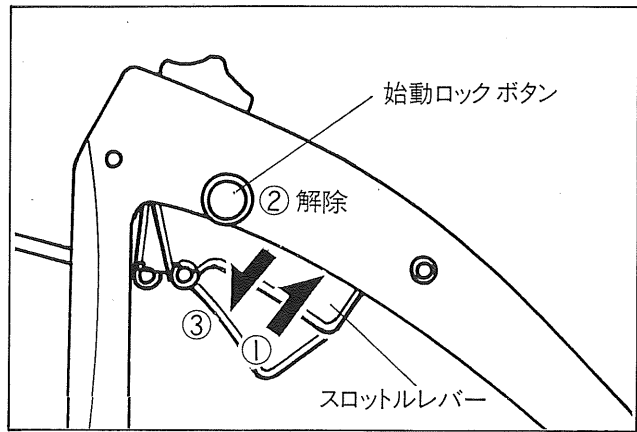


ご注意

エンジンがかかるとブレードは勢いよく動き始めます。

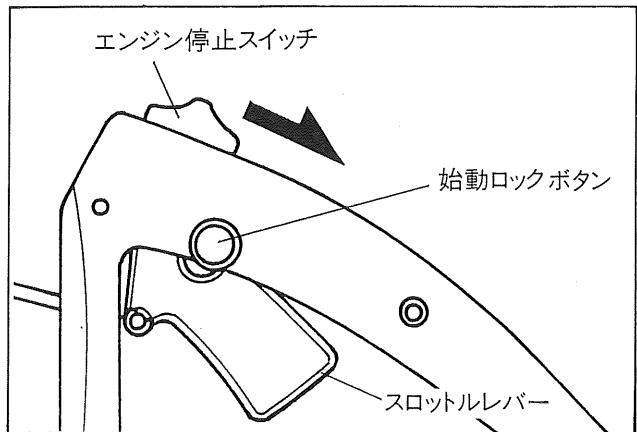
周囲の安全には十分注意をして下さい。

- 8) エンジンが始動したら、スロットルレバーを一度引き(握り)、ロックを解除して下さい。
作業に入る前には、2～3分の暖気運転を低速で行って下さい。



●停止

- 1) スロットルレバーを戻し、30秒ほど低速で運転(クールダウン)を行います。緊急時を除く。
- 2) エンジン停止スイッチを後方にスライドし、エンジンを止めます。



■使い方

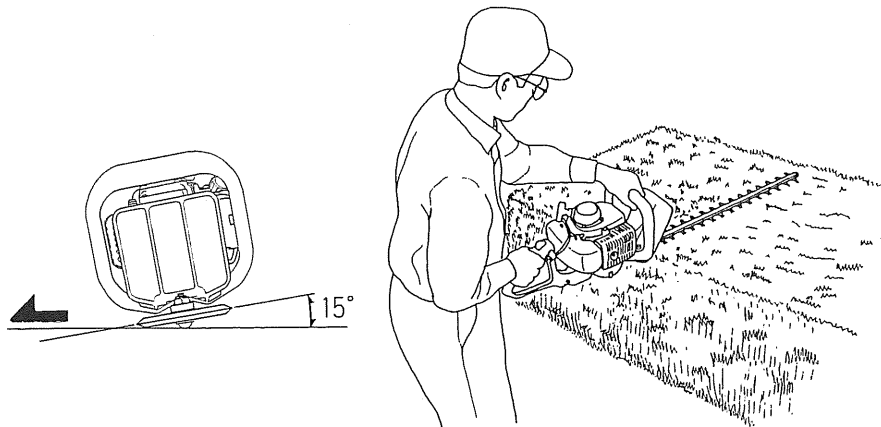
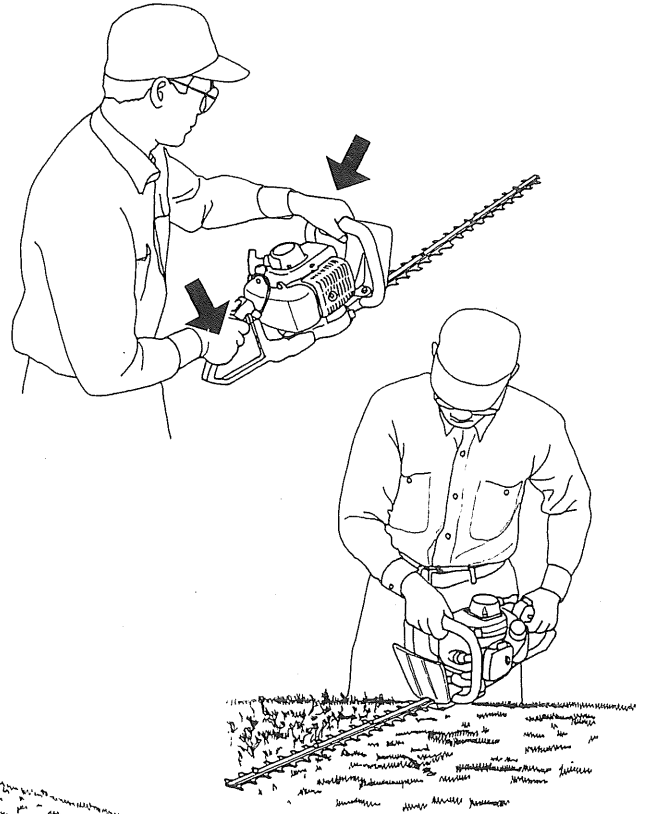
○ご注意

- エンジンがかかっているときは、必ずブレードが身体から離れているようにして下さい。
特に、植え込みや生垣の根元近くを揃えるときは十分に注意して下さい。
- 使用中、ブレードに枝などが噛みこみ、刃の動きが止まったときは、必ずエンジンを停止させてから取り除いて下さい。
- 本機は、太さ10mm程度までの枝を切るように設計されています。
太い枝やスチールワイヤなどを噛みこむと、刃や機械を傷めますので十分ご注意下さい。
- エンジンの回転数は必要以上に高速にせず、枝などが刈込める程度の回転数にスロットルレバーで調整して下さい。



植木の根元は注意

- エンジンの暖気運転を済ませた後、しっかりした足場を確保し、両手でエンジンヘッドトリマを持ち作業に入ります。
- エンジンの回転数は植え込みの粗密度や枝の大きさに応じて、スロットルレバーで調整します。
- 生垣などの植え込みは、刃先を少し(5～10度くらい)下に傾けながら(刃先がもぐり込む感じで)半円を描くように操作するときれいに刈り揃えることができます。



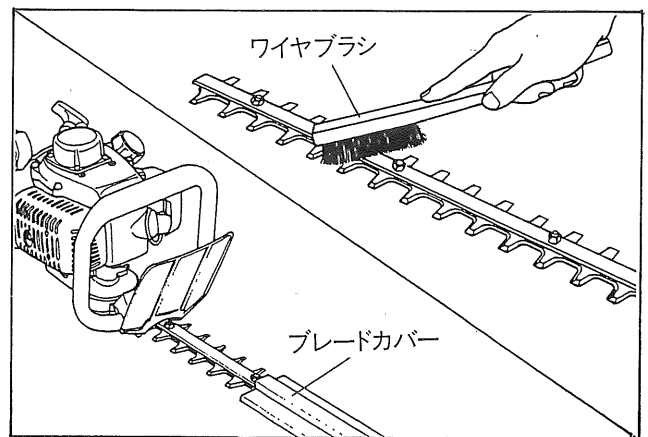
■点検と整備

(事故防止のため、点検や整備の時は必ずエンジンを止めて下さい。)

●ブレードの手入れ

- ブレードの汚れをワイヤブラシなどでよく落とし、刃先に防錆油を薄く塗っておきます。
- ブレードに付属のブレードカバーをかけておいて下さい。
- ブレードは使用の都度、上下2枚のブレードの刷り合せ具合を点検して下さい。

往復運動をする上下2枚の刃は、適切な締め代が得られるよう出荷の時点で調整されています。



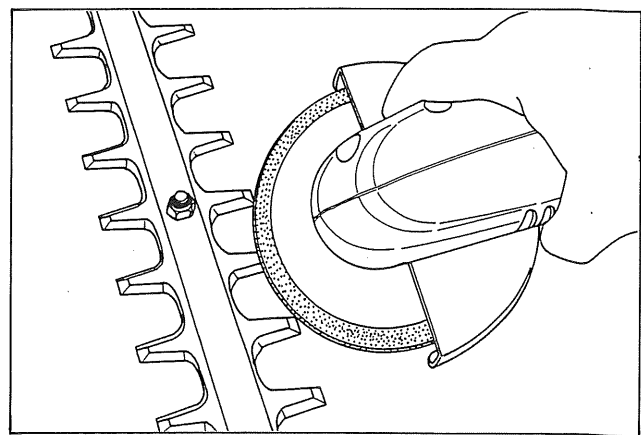
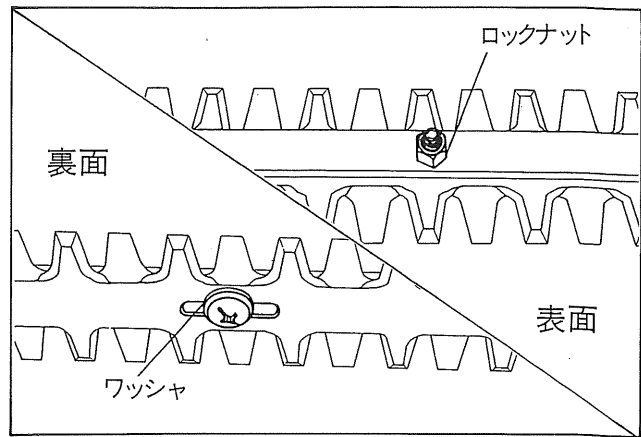
調整ネジの締付けがゆるいと切れ味が悪くなり、強すぎると刃の刷り合せが強くなり、抵抗となり磨耗から損傷を早める原因となります。

整備の都合などでネジを回したり、ネジを新品と交換する場合は、ネジを一度完全に締めこんだ後に、約半回転ほど戻しワッシャが指で回せるようにします。

つぎに、ネジをドライバで回らないように固定して表側のロックナットで完全に締付けます。

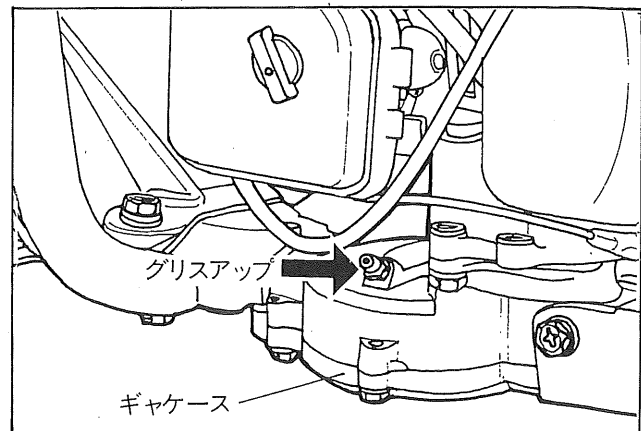
- 刃先の研ぎ直しは、平ヤスリか刃研ぎグラインダなどでおこないます。上下の刃が2mm程ずれた状態になるようにエンジンを停止させ、機体を確実に固定してからおこなってください。

* 刃先には十分注意して作業をして下さい。



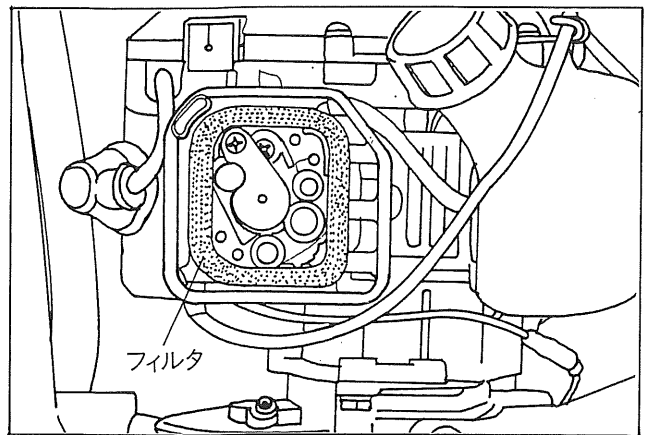
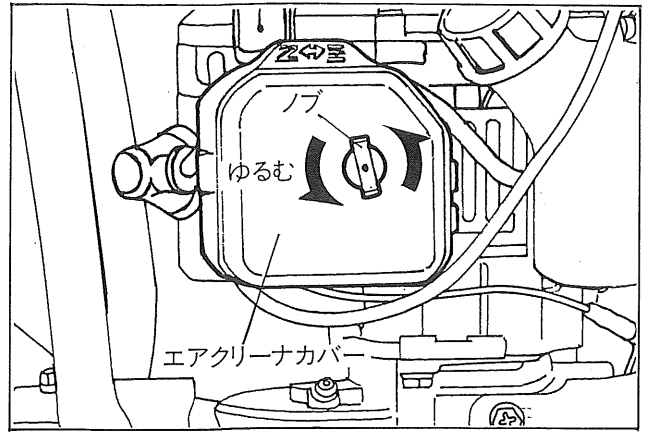
●ギヤケースの点検整備

- およそ20時間毎を目安にグリス（リチウム系、#2）を補給して下さい。補給はギヤケース先端部からグリスがにじみ始めたら補給完了です。



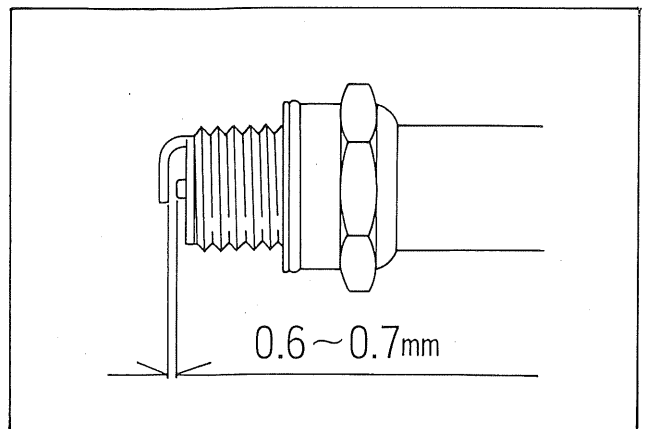
●エアクリナーの点検と清掃

- エアクリナーのフィルタは使用時間に比例して汚れてきます。燃料の消費量が増えたり、加速が悪くなったときはフィルタが目詰まりを起こしています。エアクリナーのカバーを止めているノブを回してゆるめ、カバーを外します。中のフィルタを取り外し、中性洗剤をぬるま湯で溶かした液で押し洗いをして汚れを取り除いて下さい。きれいに濯いだ後、完全に乾かしてから元どおりに取り付けます。フィルタが変形したり、破損した場合は新品と交換して下さい。



●点火プラグの点検

- 燃料を吸いこみすぎたり、オイルの質が悪かったりしますとプラグの電極が汚れ、エンジンがかかりにくくなる場合があります。また、使用時間に比例して電極の磨耗や絶縁体の劣化が進み、同様の現象が起きる場合があります。このような場合は、プラグを取り外し、電極の汚れをワイヤブラシなどで取り除き、すきまが規定の0.6~0.7mmになるように修正して下さい。プラグはチャンピオンCJ6Yか、同一熱価のNGK BPM7Aをお使い下さい。指定外のプラグではエンジン不調の原因ともなりかねませんので避けて下さい。



●長期保管

- 燃料タンクから燃料を抜き取り、エンジンを始動させます。
燃料がなくなり自然にエンジンが停止してから、スイッチを停止位置に戻しておきます。
- ブレードの汚れを取り除き、防錆油をかけた後にブレードカバーをかけておきます。
- 保管場所は、湿気が少なく、ホコリがかかりにくい屋内で、直射日光が当たらず、高温にならない、風通しの良いところに保管します。
また、小さいお子様の手が届かない、落下の心配のない安定したところで保管して下さい。

この製品は、一貫した品質管理のもとに組立てられ、厳密な検査に合格した製品です。万一の故障の場合、その他取扱上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはリョービパワーツール取扱販売店もしくは最寄りのリョービ販売(株)営業所にお問い合わせ下さい。

発売元

リョービ販売株式会社

リョービ株式会社